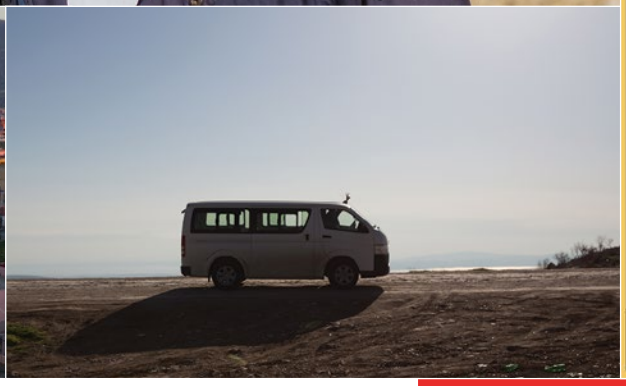
transforming lives
and communities

global

OM日本ニュース　第82号2019年　夏



祈ろう

クルド語聖書アプリの開発と配布のために、そしてクルド人の信者が関連するリソースを作成するための所有権を取得できるようにお祈りください。この新しいクルド語の翻訳がクルド人の教会に影響を与え、イエス様を信じる人が起こされるようにお祈りください。

クルド語聖書アプリ

クルド族・イラン、イラク

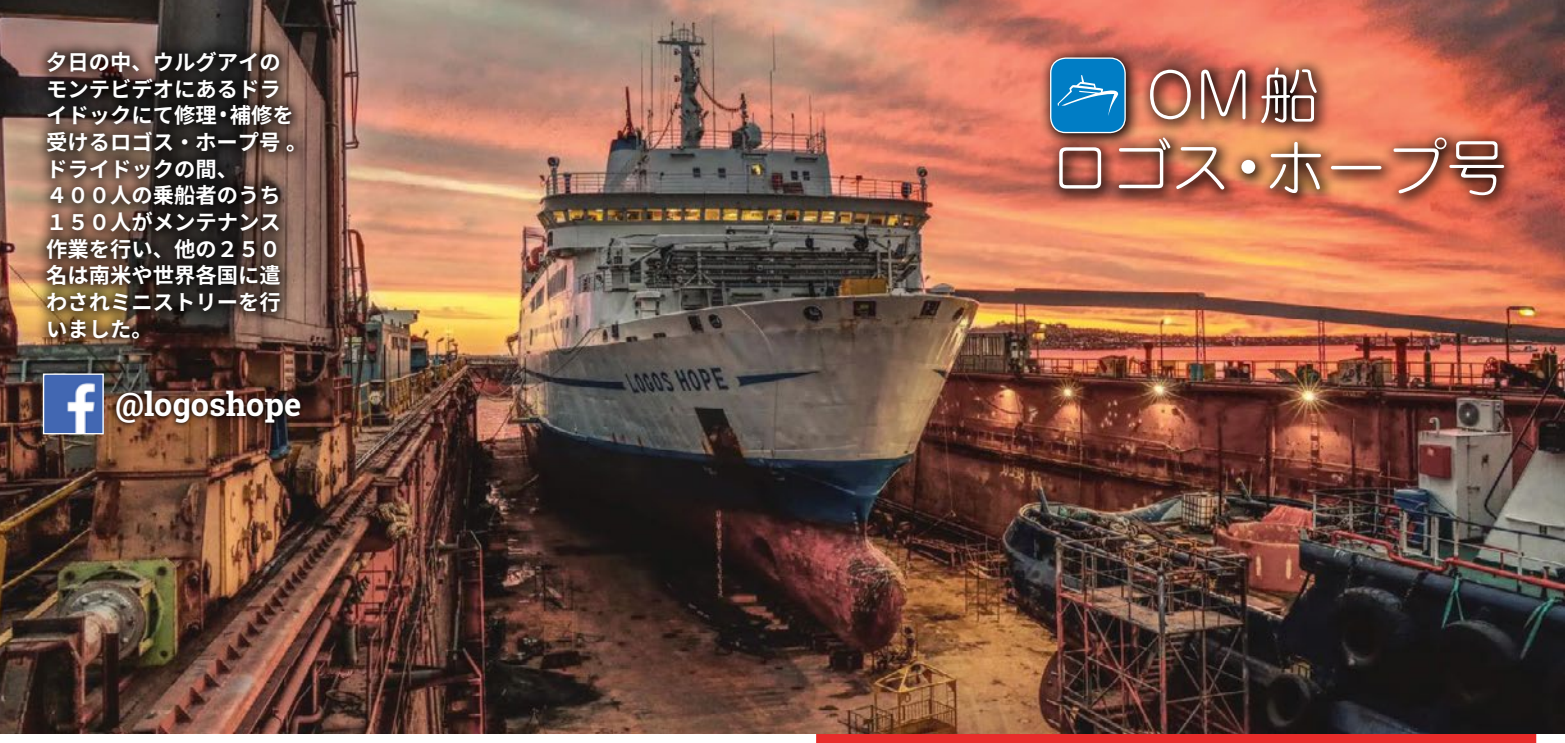
翻訳作業が始まって、150年以上経った2017年4月に、ソラニー・クルド語聖書全巻が完成し、印刷されました。ソラニー・クルド語は、クルド語の方言で2番目に広く話されている言葉であり、イランやイラクに住む約800万人の母国語です。今では、800万人の人々が自分たちの言葉で聖書を読むことができ、信仰を強くすることができ、神について知り、聖書の言葉をより深く理解できるようになりました。しかし、書店にはクルド語聖書はほとんどなく、中東に住んでいる人々にとって聖書を手にすることは困難です。

OMは協力者と一緒に簡単なクルド語聖書アプリを作成しました。これで、クルド人は聖書を自分の携帯電話で簡単にダウンロードすることができるようになりました。

「クリスチャンであることを隠さざるを得ない人たちにとって、聖書の本を持ち運ぶ事は難しいことです。」とOMワーカーの一人は説明します。「人々は、もしあなたが聖書を手にしているのを目にすれば怪しく思うでしょうが、あなたが携帯電話を手にしているのを見ても何の疑問も抱きません。」

このアプリは2017年4月から利用可能になり、その開始年には6,000回以上のダウンロードがありました。 OMは開発者と提携して、Windowsコンピューターを含むより多くのデバイスでアプリを利用できるようにしています。彼らはまた、ユーザーがソーシャルメディア上で聖書の箇所を共有し、聖書の箇所にハイライトを付け、そして自分のメモを入れることを可能にする機能を追加しています。

» ロゴス・ホープ号近況　» 特集：テイスト・ミッション・ジャパン　» 宣教の３つの焦点



夕日の中、ウルグアイのモンテビデオにあるドライドックにて修理・補修を受けるロゴス・ホープ号。ドライドックの間、４００人の乗船者のうち１５０人がメンテナンス作業を行い、他の２５０名は南米や世界各国に遣わされミニストリーを行いました。

@logoshope

OM船 ロゴス・ホープ号

金や銀は私にはないが

船越ファミリーからの報告より抜粋

（ドライドックでウルグアイに停泊中）子どもたちを連れて近くの公園で公園集会を行いました。賛美の様子を立ち止まって見てくれていた男性（３０代）に声をかけました。少し英語を話すことができる男性だったので、ロゴス・ホープ号から来たこと、また世界６５カ国から来ていることなどを話しました。そして「Do you know about Jesus Christ?」と尋ねました。すると「Jesus Christ」と言う名前を聞くやいなや、ハッとした表情をされ涙を流し始めました。「Jesus Christ」と言う名前を聞くたびに、うなずき涙を流されました。福音を語り祈りました。祈り終わると、船の男の子（５歳）が近づいてきました。彼はキッズプログラムで「手を焼かせてくれる男の子」で先生たちが目を光らせていました。彼が近づいてきて、準備していた十字架を男性に渡しました。男性は涙を流しながら十字架を受け取りノートにはさみました。聖霊様が働いて、私と５歳の男の子を用いてくださいました。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」（使徒３：６）

祈ろう

OM船ロゴスホープは現在、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルなどの南米を回っています。
日本人乗船者：一重美謝子、額田潤と船越ファミリー（信哉、紗矢、初穂ちゃん）の信仰の成長と日々の忍耐、霊•肉•精神がまもられるようにお祈りください。

行こう

ロゴス・ホープ号

世界中　　1年間／2年間

ロゴス・ホープ号で、様々な国を航海するボランティアのクルーとしてミニストリーに参加します。人生を変えるようなアドベンチャーがあなたを待っています。OMの公式なMDTプログラムではありませんが、ロゴス・ホープ号船上でも、それぞれの部署での職業訓練の他に、様々な形式の宣教、弟子訓練が提供されています。

海外での宣教奉仕の機会

110ヵ国　　2年間〜

詳しい情報、質問などはOM日本事務局まで。現在参加可能な奉仕先をオンラインで見ることができます。

www.om.org/search/opportunity（英語）

事務局スタッフ募集中

日本　　1年間〜

OM日本では宣教師の派遣と受入れに関する人事と会計、記事の翻訳、ホームページなどの働きに携わるスタッフを求めています。世界のOMに属する全員は支援者からのサポートを得て宣教師としての立場で奉仕しています。世界宣教の前線を支える事務局での働きに、ビジョンと重荷が与えられていませんか？関心のある方はお問い合わせください。

捧げよう

OMの働きを覚えてご支援下さい。

OM日本事務局支援献金

OM日本事務局の運営と宣教師の派遣業務は、献金によって行われています。事務局のスタッフは全員、ボランティアであり、家族や友人、教会からの経済的なサポートによって活動を続けています。みなさんの献金は、事務局の運営費とサポート額が十分でないスタッフの支援金として当てられます。

連絡先＆献金送金先

特定のミニストリー、プロジェクト、宣教地、宣教師のための支援金を送って下さる方は、振込用紙の通信欄に送金内容をご明記の上、OM日本の口座にご送金くださいますよう、お願いいたします。

www.omjapan.org/give

郵便振替口座 02100-0-24998
加入者名「OM 日本事務局」

テイスト・ミッション・ジャパン

TASTE Mission Japan

デビラーズ・ハンヌ
ＯＭ南アフリカ宣教師

左：英語による講義

今年の３月と４月、宮城県において２ヶ月に渡る宣教訓練•異文化体験プログラム、テイスト•ミッション•ジャパンが開かれました。ＯＭ日本初の試みであるこの企画に国内外からの参加者１０名と体験した出来事を報告します。

「出て行って、すべての人を弟子としなさい!」

２ヶ月間にわたる弟子訓練プログラム‘テイスト•ミッション’（以下TASTE）の最終日、プログラムのコーディネーターであるデビラーズ・ハンヌとアンネは参加者達をこの言葉で送り出した。

TASTEでのたくさんの講義も担当したデビラーズ・ハンヌはこう語る。「OM日本が始まって以来初めて、国内外のクリスチャン向けに、このような長期宣教プログラムを開催することができました。主は参加者の一人ひとりに‘ごく当たり前のイエスの弟子’になることを教え、そして全てを整えてくださったことに感謝しています。」

そしてこう付け加えた。「‘ごく当たり前のイエスの弟子’とは福音を理解し、それを他の人に伝えます。そして、神のみ言葉と聖霊に導かれた生活を送り、他の人々をイエスの弟子としていきます。」

「TASTEの５つの頭文字はそれぞれこのプログラムの目的を表しているんです。」とハンヌの妻、デビラーズ・アンネは説明する。「ＯＭ日本は、日本人のクリスチャンと海外のクリスチャンの両方に、彼ら自らが弟子作りをするための育成に重きを置いていましたが、TASTEはこの全てを凝縮した形として実現しました。」

TASTEでは、日本、フランス、チリ、シンガポール、台湾、韓国そしてアメリカから計１４人の人達が共に生活し、学び合った。彼らの中には、日本に到着したばかりのＯＭ宣教師や、将来日本や他の国で宣教師になりたいと考えている人たち、又、純粋にクリスチャンとしてもっと成長したいと願っている人達など様々だった。では、具体的にTASTEはどのような訓練内容で進められたのかを頭文字から説明したい。

> “チームでの生活を通して、神の家族の大切さを改めて感じました。そういう意味で、前より色んな違いを受け入れる気持ちになりました。

Team life exposure
チームライフを体験する

‘他のクリスチャンとの関係抜きで、クリスチャン生活は送れません。ですからＯＭはいつもチームとして活動することを重視しています。通常、ＯＭチームはとても国際色豊かなので、多くの賜物が合わさり、ダイナミックさを増す分、それにより葛藤や誤解が生じることもあります。私達は異なる文化や社会性、教派を持つ人々と共に生活するという体験を参加者の皆さんに提供したいと思いました。そこで参加者は全員、一軒家に住みながら、他の人々に福音を伝え、礼拝や伝道集会のプログラムを共に準備することで、バックグラウンドの異なるクリスチャン（神の家族）と共に働く難しさとその有益さを学びました。

Applied ministry training
宣教トレーニングを適応する

大抵のクリスチャンの訓練は、とても神学的なことに重視をおくため、信徒へ知識の上では素晴らしい勉強になるのですが、周りにいる人々への伝道や、弟子訓練へと繋がらないことが多々あります。私達はこの訓練をとても実践的にし、学んだことをすぐに適応できるようにと心掛けました。例えば福音について学んだ時には、福音とは何かについてそれぞれが発表の時をもったり、神様の力について学んだ時には、グループ内で、また街に出て行って病気の人の為に祈る機会を設けたりしました。‘教会’について学んだ時には、グループはクリスチャンの集まりにお

TASTE参加者全員が宿泊した民家。川沿いに位置することからリバーサイドと愛称がついた

の様子。　中央：TASTEの学びは講義部屋だけにとどまらない。実際に寺院を訪ねて日本の宗教を学ぶ。　右：学びは全ては実践型。リバーサイドで実際に集会。

ける準備やリードの機会が与えられました。私達は参加者がどこに置かれていても使えるミニストリーの方法を分かち合いたいと願いました。‘

Social immersion 社会に浸透しながら

日本でどのようにキリストの弟子を作っていくかを考える時、日本の文化や生活様式を理解していくことは、必要不可欠なことです。そのため、TASTEの参加者全員が地方の典型的な和式の民家で生活し、日本の地方での日常生活を体験しました。週に２回は、小グループに分かれ、市内の色んな町々に出かけて行き、人々の生活を観察し、そして積極的に会話していくこと。その結果、色々な出会いが生まれ、その中でイエスを証する機会が与えられたことも感謝でした。

“このプログラムを知ったタイミングや内容全て、神様が導いて下さっていると感じました。私の進むべき道が示されることを願って参加しました。

Thinking forward 将来について考える

参加者は全員、自分の将来について、つまり「神の国における自分の役割」について多くの問いを胸にかかえ、このプログラムに参加しました。私達は、彼ら一人ひとりと賜物について、将来の召しについて祈りの時が持てたことをとても感謝しています。

“この地でOutreach（伝道）に出掛けたとき、霊的に開かれているように感じました。神様は日本を新しくされる事を信じます！

Exploring possibilities 可能性を探る

私達は参加者の皆さんがTASTEの後、主は私達の考えをはるかに超えて働かれる方であるということを、これまで以上に意識し、より強い信仰と従順をもって毎日の生活を歩むことができるようにと願っていました。

それで、イエス様がルカ１０章で弟子達を宣教の旅に遣わしたように、私達も参加者を小グループにわけて、“信仰の旅”に送り出しました。グループはそれぞれ各自で主に祈り「何をするべきか、何を持参するべきか」の導きを求めました。

あるグループは、お金を持参しないことに導きを感じました。それで彼らはヒッチハイクをして、乗せてもらった車中で福音を伝え、出会った人の家で泊まらせてもらったり、別のグループは民宿に泊まらせてもらったりと、神様のすばらしい備えを経験しました。この旅は信仰について他の人と話をする絶好の機会を作りだし、何よりも参加者にとって、神様にできないことはないという証となり、個人の恐れを克服する経験となりました。

テイスト・ミッション

プログラム期間:
2019年３月６日～４月30日

コースの目的：
テイスト・ミッション・ジャパンはOMの長期ミニストリー（海外＆国内）に関心のある方々に、実践的な学びと訓練の場を提供し、長期宣教がどのようなものかを体験し、将来の働きへ備えるプログラムです。

国外と国内の両方から参加者を募り、様々な国の人達と共同生活の中で生まれる交わりや挑戦、弟子づくりに関するトレーニング。キリストの弟子として、異文化チームや地域の人々との関わり、学んだことを行動に移すミニストリーの実践。

参加者国籍：日本、フランス、チリ、シンガポール、台湾、韓国、アメリカ

参加人数：計１４人（新規ＯＭ宣教師も含む）

言語: 主に英語

行こう

ＯＭ日本は、国内また海外において、様々なトレーニングの機会を今までも、そしてこれからも提供していきます。
興味のある方はpersonnel.jp@om.orgまでお問合せください。

参加者からの感想

“‘テイスト’はクリスチャンとは何か、また私はどのように生きるべきかについてより深く考えさせてくれました。このプログラムで一番良かったことは、宣教体験がとても現実的だったことです。私はいつも宣教師の為に祈ってきましたが、今は宣教師達のチャレンジがよく分かり、もっと真剣に祈っていく必要があることに気づかされました。

“訓練からも多くのことを学びました。TASTE で過ごした日々から、その知識は頭の中だけに留まらず心に入りました。聖書に書かれてある多くの事柄がもはや単なる言葉ではなくなりました。「主の守りは完全である」ということにしても、実体験を通して、心と体の両方を通して理解できるようになりました。

“神様の為に選ぶ道ならば、そこには神様が伝えたい事があると思います。もしかしたら参加した時に思っていた事と違ったり、色んな事を感じるかも知れません。でもどんな時も神様を見上げるなら感謝に変わると思います。

日本人の参加者からのコメント

“テイストのリーダー達や、自分自身の経験から、神様に委ねることも学びました。自分の国に住んでいると、多くの事を神様なしで出来てしまうように感じます。毎日 OM 宣教師達を見ていて、自分が今まで抱いていた‘宣教師’のイメージが変わりました。宣教師達も普通の人達なんだと分かりました。　教会では、宣教師というと、信仰の巨人という印象を抱いていました。しかし今では、自分が宣教師になることも不可能なゴールではないと思えるようになったのです。

海外の参加者のコメント

“ 信仰の旅”を通して参加者全員が主の備えを体験しました。 海鮮料理を備えられたり、オーシャンビューの民宿を備えられたり。ヒッチハイクも守られて感謝。

左上：イースターの前に行ったお花見の席で賛美を歌い、イースター（復活祭）の意味を語りました。左下：震災より続くＯＭ宮城チームと南三陸の漁師さんとの関係。TASTE チームもこの日は魚介類のパッキングシール貼りを手伝いました。　中央下：TASTE チームが宮城チームの英会話カフェ・ミニストリーに参加。

宣教の３つの焦点

スティーブン　スミスドルフ
OM日本代表、妻の契子と3人の子供達、モーゼ（17）、恵真（13）、ヨハン（11）と共に宮城県在住

OMのビジョンは**「最も福音の伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられること」**です。

口に出すのは簡単ですが、実際にはどのようにしてこのビジョンを達成することができるでしょうか？その答えとして、日本宣教に関しては、以下の３つの分野に焦点を当てて説明します。

まず１番目に、**教会を動員する**ことによってです。すでに福音を受け取った人々が、福音の届いていない場所へ出かけていけるよう、動機づけ、励ましています。設立当初から、オペレーション・モビライゼーション（ＯＭの正式名称。英語では「働き人を総動員する」を意味します）は、キリストの体が宣教に携わり、福音を聞いたことのない人々が少なくとも一度は耳にすることができるようにという願いの元に進んできました。

２番目に、イエスに従う人々が、効果的に他の人を**弟子とすることができるように訓練する**ことです。今日、世界の多くの国で教会が成長していない理由の一つは、効果的な弟子訓練が成されていないからです。だからこそ、ＯＭでは、宣教弟子訓練プログラム（ＭＤＴ）を多くの国々で開催しています。ここ日本でも、この度2019年３月から４月まで、テイスト・ミッションという初のプログラムを開催しました。１０人の参加者の人達が、学んだ伝道のツールを用いて、どこにいても福音を伝えることができることに気づき、変えられていく姿は素晴らしいものでした。ＯＭ日本としては、これからもっと多くの主の弟子達が全世界に出て行って弟子を作れるよう、訓練していきたいと願っています。≫テイスト・ミッションの報告は裏面

３番目は、私たちの核となる働きである、**「福音の伝えられていない場所」へ出て行く**ことです。宣教団体として、すでに多くの教会が存在する場所で教会開拓をしようとは思いません。イエス様の事がほとんど証されていない地域でこそ活動したいと願っています。暗闇で覆われている場所で、光として輝きたいのです。地の果ての福音の届いていない場所に働き人を送り出したいと願っています。この日本には、教会もクリスチャンの存在もない地域がまだ多く存在します。ですから、この世の暗闇の中に住むたくさんの日本の人々にも福音を届けていこうと思っています。

この春休み、毎年恒例のOM日本のリトリートがありました。約５０名のOMメンバー（大人３０名、子供２０名）＋テイスト・ミッションのボランティア１０人が集合しました。神様は、より多くの宣教師達を日本で仕える為に遣わしておられます。そして、さらにもっと多くの人々が加わるように祈っています。私達はこのため、**日本の地で仕えるためイエスに忠実に従う人々と、日本の国から全世界に送り出される人々の両方を求めています**。あなたの祈り、経済的支援、又は世界中で開催されている色んな伝道プログラムへの参加を通して、OMの働きに加わってみませんか？

OMとは？

OM（Operation Mobilisation）は、世界約 110 カ国で 3200 名が活動している世界宣教団体です。OM は世界における福音伝道のために奉仕者の育成を行っています。また、特に福音が届きにくい地域に重点を置き、教会開拓や教会の働きを強化する働きも担っています。

transforming lives and communities

OM日本・OM Japan
www.omjapan.org　fb.me/omjapan　info.jp@om.org
+81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)　〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台２丁目394
郵便振替口座 02100-0-24998　加入者名「OM 日本事務局」

OM日本ニュース　第82号2019年　夏
発行人：スティーブン スミスドルフ　　編集：近藤健二